

施工説明書別添付

保管用

屋内専用

防排煙連動操作盤 取扱説明書

お買い上げありがとうございます。
正しくお使いいただくため、この説明書は大切に保管してください。

品番：NLD916AEA□□（□□は回線数）



NDC 日本ドライケミカル株式会社

はじめに

- このたびは、日本ドライケミカル製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。**取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。**
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

取り扱いについてのご注意

- 平常時には次のことを守ってください。連動操作盤の取り扱いを誤ると火災時に正しく動作せず、避難・消火活動が大幅に遅れるおそれがあります。
- 受信機音響強制停止状態にしない。
- 電源スイッチや電池を切らない。
- 正常な監視状態にあるか確認する。（「平常時の連動操作盤の状態」(9 ページ)を参照）
- 警報が鳴ったら、まず現場を確認してください。

火災の場合

- 119 番などに通報する。
- 避難誘導および、可能であれば初期消火をする。

火災でない場合

- 発生原因がわかれば取り除く。
- 発生原因不明のときは点検契約店に連絡し、再発防止を施す。

連動操作盤の扉を開けるときのご注意

90° 以上、扉を開けると扉の変形や他の物品を破損するおそれがあるので注意してください。

ご使用前に

- この設備は、火災感知器などからの信号を受けて防火戸などを自動的に作動させる働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災などによる損害については、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
- この設備は皆様の生命・財産を火災から守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
- この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検を行ってください。（定期点検は、施主様と施工店または点検契約店でご契約ください。）
- 本連動操作盤の運用にあたっては、必ず現在の日付と時刻を設定してください。設定しないと、正しい発報／操作履歴データを記憶できません。設定方法については「現在時刻を設定する方法」(28 ページ)を参照してください。



この設備をご使用になる皆様へ

全上のご注意

この設備を正しくお使いいただくためや、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、この取扱説明書にはいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。
 分解禁止	 必ず守る
 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 (上図の場合は分解禁止が描かれています。)	
 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。	

警告



禁止

取り扱い管理される方へ

- 防火管理者および電気工事士・消防設備士などの資格者以外は連動操作盤内部に手を触れない。
感電・故障の原因となります。
- ぬれた手で連動操作盤をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。
感電・故障の原因となります。
- 感知器は絶対に取りはずさない。
出火時に火災発見ができません。
- 防火戸・シャッター・防煙たれ壁などの近くに、物を置かない。
火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。
- 点検用スイッチカバー内にあるスイッチは操作しない。
(点検資格者、消防設備士が操作するところです。)



分解禁止

- 機器を分解したり、修理・改造はしない。
感電・故障の原因となります。



禁止

点検・施工される方へ

- 保守・点検以外で、受信機音響強制停止状態にしない。
(スイッチ注意灯・受信機音響強制停止灯が点滅します。)
- ぬれた手で連動操作盤をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。
感電・故障の原因となります。
- 感知器は絶対に取りはずさない。
出火時に火災発見ができません。
- 電池は火に投入したり、ショートさせない。
爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。
- 防火戸・シャッター・防煙たれ壁などの近くに、物を置かない。
火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。



必ず守る

- 電池は必ず接続する。
電池を接続していないと停電時に機能しません。
- 試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻す。
戻さないと火災時、正常な警報動作をしません。



分解禁止

- 機器を分解したり、修理・改造はしない。
感電・故障の原因となります。

⚠ 注意	
 必ず守る	取り扱い管理される方へ ●連動操作盤のスイッチなどが正常な監視状態にあるか確認する。 正常な監視状態でないと火災時に正しく動作しません。 ●点検用スイッチカバーは必ず閉じる。 引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。
 必ず守る	点検・施工される方へ ●点検などで作動させる場合は、連動している設備の内容を十分確認して操作する。 不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。 ●点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じる。 引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。

《予備電源（ニカド電池）取り扱い上のご注意》

⚠ 注意	
 禁止	●電池は絶対に分解しない。 電解液は強アルカリ性ですので、皮膚や衣類をいためたりします。 ●交換した電池は、火中に投入しない。 電池が破裂する場合があります、危険です。電池はリサイクルに協力してください。
 必ず守る	●コネクタは極性を守って正しく差し込む。 逆に差し込むと電池のふくれや破裂の危険性があります。

定期点検について

防災設備は、設置後の保守点検・維持管理がともなって、はじめて正常な機能を発揮する商品です。
施工店または点検契約店と「点検契約」を結んでください。

点検は法律で義務づけられています



消防関係法令では、防火対象物の関係者（建物の所有者、管理者または占有者）は定期点検の実施およびその結果を報告するように定められています。点検の結果は維持台帳に記録し、定められた期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。

■消防法施行規則第31条の6

- 点検は、消防用設備などの種類および点検内容により1年以内に、消防庁長官が定める期間ごとに行う。
- 点検を行った結果は、維持台帳に記録し、消防機関へ報告を行わなければならない。

■点 検

対象の設備	点検の内容および方法	点検の期間
連動制御設備	機 器 点 検	6ヶ月に1回
	総 合 点 検	1年に1回
配 線	総 合 点 検	1年に1回

■報 告

特定防火対象物の場合	1年に1回
特定防火対象物以外の場合	3年に1回

点検には資格が必要です



定期点検は、国が定めた資格者（消防設備点検資格者または消防設備士）が行うよう、法令で決められています。

■消防法第17条の3の3

- 消防用設備の点検は、消防設備士または総務省令で定める資格者に行わせなければならない。

「専門知識を有する会社」と点検契約をおすすめします

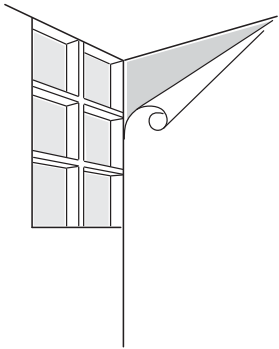
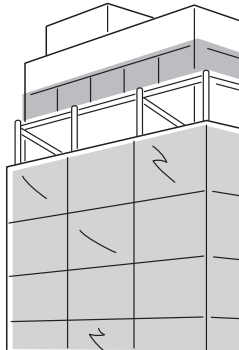
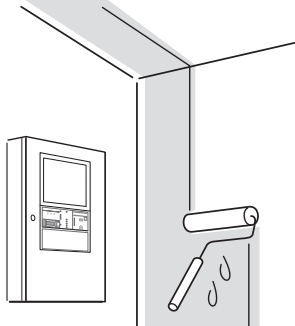
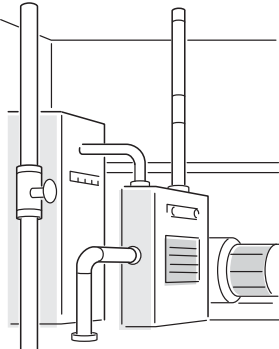
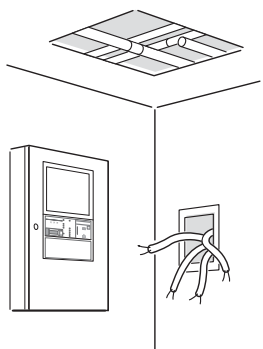


日本ドライケミカル製品取扱店と「点検契約」を結びますと、専門の知識・技術を持つ有資格者が定期的に訪問し、責任を持って防災設備の点検をいたします。

防災設備の正常な機能を維持するために、「点検契約」を結ばれることをおすすめします。

二 んなときは

●下記のような場合、消防法に適合しなくなったり、この設備が正常に機能しなくなるおそれがありますので、定期点検の時期まで待たずに、点検契約店にご連絡ください。

増 改 築 ●増築や改装をしたとき 	修 繕 ●建物を修繕したとき 	塗 り か え ●天井や壁を塗りかえたとき 
設 備 工 事 ●設備の工事をしたとき 	電気・ガス・水道工事 ●電気・ガス・水道工事をしたとき 	天 災 被 害 ●台風・雷・地震などの被害を受けたとき 

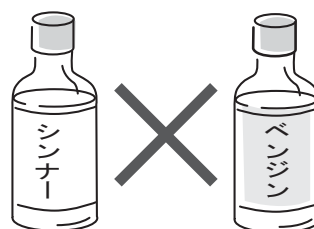
お手入れ方法

●表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。

- ふだんのおそうじは、やわらかい布でふき取ってください。
- 汚れが目立つときは、中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。



ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。





1.各部のなまえとはたらき	9～10
2.連動操作盤が警報した場合	11～12
●火災の場合	11
●音声警報スピーカーについて	11
●火災でない場合	12
3.日常点検	13
4.異常時の点検・処置	14～15

1

各部のなまえとはたらき



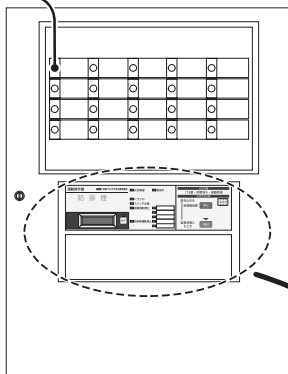
警告



禁止

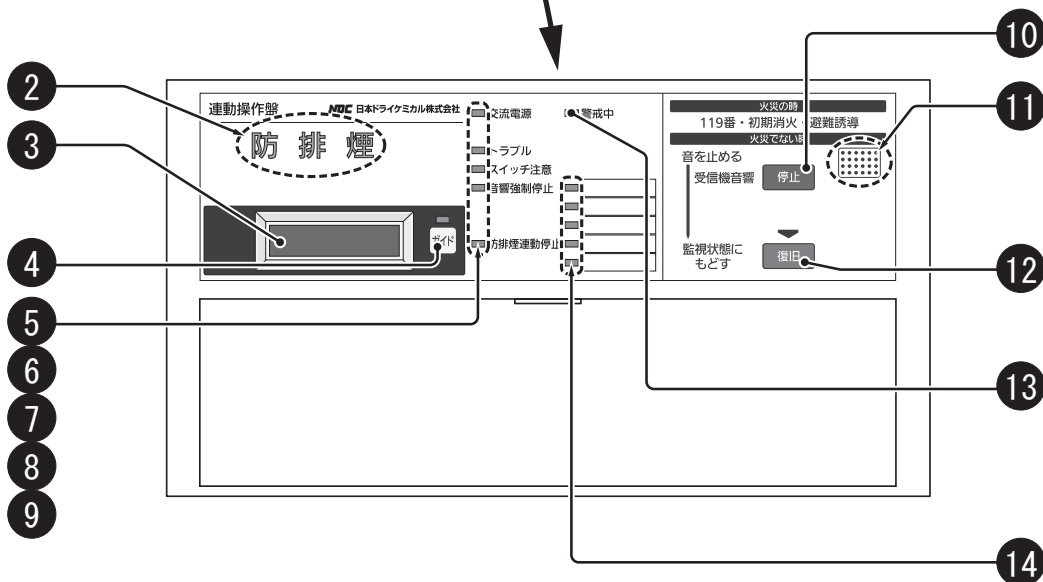
- 防火管理者および電気工事士・消防設備士などの資格者以外は連動操作盤内部に手を触れない。
感電・故障の原因になります。

1



平常時の連動操作盤の状態

- 火災が発生したとき、連動操作盤が正常に動作するよう、平常時は下記の状態であることを確かめください。
- 平常時において下記の状態とならない場合、「4. 異常時の点検・処置」(14ページ)の内容を確認のうえ、点検契約店にご連絡ください。
- 交流電源灯……点灯(緑) ■警戒中灯……点灯(緑)
上記以外はすべて消灯



■音声ガイドについて

音声ガイドが鳴動する連動操作盤の状態が2つ以上あっても、下表の順番でより優先順位が高い内容のみを知らせます。

連動操作盤の状態	音声ガイド内容
感知器作動	火災感知器が作動しました。現場を確認してください。
トラブル発生中	トラブルが発生しました。トラブル確認スイッチを押して内容を確認してください。
受信機音響強制停止中	受信機音響強制停止中です。
スイッチ注意灯点滅中	定位でないスイッチがあります。

1 地区灯 (赤)

- 「点灯」で防火戸などの入力
- 「早点滅」で火災試験、防排煙個別制御時の回線選択時
- 「中点滅」で防火戸などの未作動
- 「遅点滅」で感知器配線の異常
- 「特殊点滅」で防排煙感知器の作動
(防排煙連動設定 OFF 設定時のみ)

2 防排煙灯 (赤)

防排煙感知器作動時に点滅します。

3 液晶表示部

火災信号が入ったとき、地区灯の点灯と同時に発報回線を表示したり、トラブル内容の表示をしたりします。

4 音声ガイドスイッチ (赤ランプ付)

受信機音響 (主音響・機器作動音響・トラブル音響) が停止し、音声ガイドスイッチ灯が点滅しているときに押すと、連動操作盤の状態を音声で知らせます。
※音声内容については、「音声ガイドについて」(9 ページ)を参照してください。

5 交流電源灯 (緑)

交流電源が入っていることを、点灯で知らせます。

6 トラブル灯 (赤)

連動操作盤または配線に異常が起きたとき、点滅で知らせます。点滅時は、施工店または点検契約店へ連絡してください。(異常の内容は液晶表示部で確認できます。)

7 スイッチ注意灯 (赤)

いずれかのスイッチが通常の状態でないとき、点滅で知らせます。

8 音響強制停止灯 (赤)

受信機音響 (主音響・機器作動音響・トラブル音響) の「強制停止」状態が作動していると点滅で知らせます。

9 防排煙連動停止灯 (赤)

防火戸などが連動しない状態であることを点滅で知らせます。

10 受信機音響停止スイッチ

押すと主音響・機器作動音響・トラブル音響・防排煙作動音響が止まります。

(主音響・機器作動音響・トラブル音響・防排煙作動音響) は一度止めても、新たな火災信号・諸警報信号・トラブル信号・防排煙作動信号が入れば、再び鳴動します。

11 音声警報スピーカー

火災・トラブル発生時等に、「音声+音響」または「音響のみ」で発生を知らせます。

※詳細については、「音声警報スピーカーについて」(11 ページ)を参照してください。

12 復旧スイッチ

押すと防排煙灯・地区灯が消灯し、主音響が止まり、通常の監視状態に戻ります。

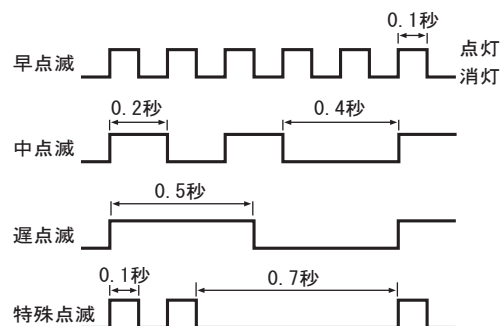
13 警戒中灯 (緑) (平常時点灯していること)

電源投入後、約 20 秒で起動処理が完了し点灯します。試験復旧スイッチが押されている場合、または音響強制停止状態の場合は消灯します。

14 諸警報表示部 (赤)

諸設備に異常が起きたときに、点灯で知らせます。

■点滅について

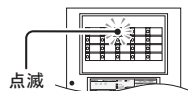


2

連動操作盤が警報した場合

■主音響が鳴ったら、次の手順で操作してください。

- 1 地区灯(赤)の点灯、または点滅位置によってどこで火災が起きているか確かめる。



液晶表示部
(感知器による火災発報時)

L003 カンチキサド[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ

- 2 受信機音響停止スイッチを押し、主音響を止める。



L003 カンチキサド[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ



- 3 出火場所へ行き状況を確認する。

火災の場合

- 4 119 番に通報する。

その後、避難誘導および、可能であれば初期消火など適切な処置をする。

- 5 火災鎮火後、復旧スイッチを押し、通常の監視状態に戻す。

監視状態に
もどす

復旧

■液晶表示部について

※液晶表示部に部屋番号等のメッセージを表示させることもできます。
(設定説明書を参照してください。)

L003 カンチキサド[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ

発報回線を示します。

■液晶表示部の表示切替

回線番号表示と部屋番号メッセージ表示を◀(左)・▶(右) 選択スイッチを押すことで切替えることができます。

部屋番号：1021号の場合

1021号 カンチキサド[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ

◀(左)・▶(右)
選択スイッチ

L003 カンチキサド[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ

■液晶表示部の拡大表示について

部屋番号を拡大表示させることもできます。拡大表示の場合、ガイド表示部の文言は表示されません。

(部屋番号メッセージ設定については、
設定マニュアルを参照してください。)

1021

部屋番号：1021の拡大表示

音声警報スピーカーについて

連動操作盤の状態	音 響	音声(※1)
防排煙感知器作動音響	ピーピーピーピー	〇〇階で(△△回線で)(※2)火災感知器が作動しました。現場を確認してください。(女性の声)
トラブル時	ピーー	トラブルが発生しました。(女性の声)
機器の作動(警報入力、防排煙の作動)	プープープープー(※3)	-
蓄積開始時(1回のみ)(※4)	プー	蓄積中です。(女性の声)

※1 設定により、音響のみ(音声なし)を鳴動させる設定もできます。

※2 設定により、発報階・発報回線・場所なしの切替設定ができます。

※3 設定により、鳴動させない設定ができます。(出荷時設定「鳴動する」)

※4 設定により、鳴動させる設定ができます。(出荷時設定「鳴動しない」)

各種設定については施工店・点検契約店にご相談ください。

火災でない場合

4 地区灯の点灯している場所で、次の状況を確認し処置する。

感知器が作動していないか？

- 確認灯付感知器の場合、作動した感知器の確認灯が点灯します。

処置：作動した感知器から煙または熱を取り去る。



- 煙感知器の場合、水蒸気・ホコリ・調理の煙などでも作動することがあります。
- 熱感知器の場合、ストーブなど暖房の熱が直接当たったり、感熱部が変化すると作動することもあります。

5 復旧スイッチを押し、地区灯と防排煙灯、液晶表示部が消えるか確かめる。

- スイッチ注意灯が消えます。

- 感知器の確認灯も消えます。

※地区灯・防排煙灯が消えない場合はもう一度 4 5 の手順を繰り返してください。

L003 カサイド ナイ
トキ フツキュウ ソウサ

監視状態に
もどす

復旧



6 通常の監視状態に戻る。

地区灯・防排煙灯が消えない場合や処置できない場合は、点検契約店へご連絡ください。

 注意


必ず守る

- 日常、次の点検を行う。
緊急時の操作に支障をきたしたり、不動作、作動遅れ、誤動作の原因となります。

連動操作盤

- 「平常時の連動操作盤の状態」に保たれているか？
(9ページ参照)
- 近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？

感知器

- 変形、割れなどがないか？
- ペンキなどで塗装されていないか？
- ビニールテープなどが貼り付けられていないか？
- 煙感知器の場合、クモの巣・ホコリなどがついていないか？
- 熱感知器の場合、下にストーブなどの熱源が置かれていないか？
- 火災の感知を妨げる障害物がないか？
- 下に多量に煙の発するものを使用していないか？
- 空気が管が切れたり、つぶれたりしていないか？

防火戸用ロック

- 損傷していないか？
- 防火戸が閉じる範囲内に障害物が置かれていないか？

機器に異常が見つかった場合は、点検契約店へご連絡ください。

4

異常時の点検・処置



警告



必ず守る

この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。
異常を放置すると火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

- 以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。
正常に戻らなかった場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。

状 態	点 検	処 置
交流電源灯が消灯している。	防排煙設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。
警戒中灯が消灯し、操作部のすべての表示灯が点灯している。		
火災でないのに警報動作をする。	煙感知器の近くに調理の煙・水蒸気・ホコリなどが滞留していないか？	煙・水蒸気などを取り除き、復旧スイッチを押す。
	熱感知器の近くにストーブなど暖房の熱が直接当たっていないか？	熱などを取り除き、復旧スイッチを押す。
諸警報表示部が点灯し、機器作動音響もしくはトラブル音響が鳴動している。	諸警報表示部の点灯位置によって、異常内容を確認する。	異常が起きた設備の状況を確認し、施工店または点検契約店へ連絡する。

4 異常時の点検・処置

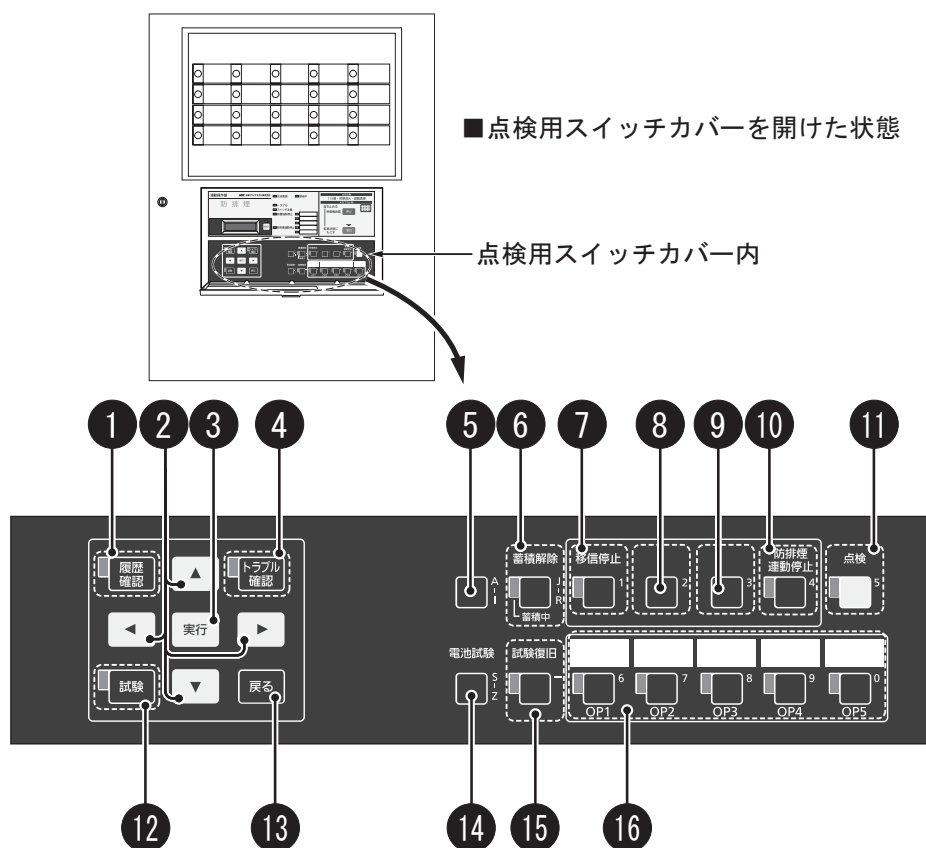
●以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。

状 態	点 検	処 置
警戒中灯が消灯している。	音響強制停止灯（赤）が点滅していないか？	受信機音響強制停止状態を解除する。
	試験復旧スイッチ灯（赤）が点滅していないか？	試験復旧スイッチを押す。
火災でないのに警報動作している。	感知器配線が短絡または絶縁劣化していないか？	配線を直す、感知器を確認する。
	火災以外の原因はないか？	日常点検をする。
火災でないのに復旧スイッチを押した後、再度火災警報する。	感知器が作動状態になっていないか？	●感知器から熱または煙を取り除く。
操作表示部の警戒中灯以外のすべてのランプが点灯し、液晶表示部に「トラブル ドウサフノウ」が表示している。	防排煙設備専用ブレーカーが「切（OFF）」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入（ON）」側にする。
	連動操作盤内の交流電源スイッチが「切（OFF）」側になっていないか？	連動操作盤内の交流電源スイッチを「入（ON）」側にする。
	交流一次側ヒューズ（F1・F2）が切れていないか？	連動操作盤内部の異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。
	停電などにより交流電源が切れていないか？	停電状態が復電するまで待つ。
	副受信機電源（DI+、DI-）が 20.4V 以上あるか？	連動操作盤内部の電源回路が異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。
トラブル灯が点滅、トラブル音響が鳴動し、液晶表示部に「トラブル ＊ ＊ ＊」が表示している。	トラブル確認操作により、トラブル内容・発生場所を確認する。 （トラブル確認操作については「トラブル確認の方法」（30 ページ）を参照してください。）	「トラブル確認の方法」（30 ページ）の該当項目の点検・処置を行う。
DL-DLC 配線の終端器をはずしても断線表示しない。	終端器設定が正しく設定されているか？	終端器設定を確認する。 詳しくは設定説明書を参照。
	該当回線が空き回線登録されていないか？	指定の終端器を接続した状態で空き回線登録を再度行う。
	該当回線の回線種別が警報回線に設定されていないか？	回線種別設定を確認する。 詳しくは設定説明書を参照。 （回線種別が警報回線の場合は断線表示はしない。）

1. 各部のなまえとはたらき	17～18
2. 点検のしかた	19～36
●点検する前に	19
●一斉試験の方法	19～20
●火災試験の方法	21～22
●感知器の作動回線の 液晶表示部での確認方法	23
●電池試験と電池の電圧測定方法	24
●防排煙個別起動制御の方法	25
●防排煙個別復帰制御の方法	26
●受信機音響の強制停止のしかた	27
●定時試験について	28
●現在時刻を設定する方法	28
●機能設定(ソフト設定)の開始方法	29
●機能設定(ソフト設定)の終了方法	29
●交流電源スイッチを「入 (ON)」側に するときのご注意	29
●交流電源スイッチを「切 (OFF)」側に するときのご注意	29
●トラブル確認の方法	30～32
●発報／操作履歴の確認方法	33～36
3. 内部回路図	37～38
4. 定格・仕様	39～40
●定格・仕様	39
●感知器接続数	40

1

各部のなまえとはたらき



1 履歴確認スイッチ／ 履歴確認スイッチ灯(赤)

履歴確認を行うときに使用します。押すと液晶表示部に履歴メニューを表示し、履歴確認スイッチ灯とスイッチ注意灯が点滅します。もう一度押すと、液晶表示部、履歴確認スイッチ灯とスイッチ注意灯が消灯します。

2 ▲(上)・▼(下)・◀(左)・▶(右) 選択スイッチ

表示画面内容を切り替えるとき、または火災試験時、防排煙個別制御時の回線選択時に使用します。

3 実行スイッチ

表示画面内容を実行するときに使用します。

4 トラブル確認スイッチ／ トラブル確認スイッチ灯(赤)

トラブル確認を行うときに使用します。押すと液晶表示部にトラブル内容を表示し、トラブル確認スイッチ灯とスイッチ注意灯が点滅します。もう一度押すと、液晶表示部、トラブル確認スイッチ灯とスイッチ注意灯が消灯します。

5 A-Iスイッチ

使用しません。
(ソフト設定時のみ使用します。)

6 蓄積解除スイッチ／

蓄積解除スイッチ・蓄積中灯(赤)

火災信号による蓄積動作中に点灯します。押すと蓄積機能が解除されます。

(蓄積解除スイッチ・蓄積中灯／
スイッチ注意灯……………点滅)
もう一度押すと、蓄積機能が有効になります。
(蓄積解除スイッチ・蓄積中灯／
スイッチ注意灯……………消灯)

7 移信停止スイッチ／

移信停止スイッチ灯(赤)

- 押すと代表移信接点 (DFa1・DFb1-DFc1、DFa2・DFb2-DFc2、DFa3-DFc3、DFa4・DFb4-DFc4、DFa5-DFc5) の出力が「停止」状態となり火災信号が入っても誘導灯などは作動しません。
(移信停止スイッチ灯／スイッチ注意灯…点滅)
もう一度押すと、停止解除になります。
(移信停止スイッチ灯／スイッチ注意灯…消灯)
- 回線別移信 (In-IC) も移信停止スイッチで停止します。(出荷時設定) 回線別移信 (In-IC) を停止するスイッチは、ソフト設定で変更することができます。(詳しくは設定説明書を参照してください。)

8 2スイッチ

使用しません。
(ソフト設定時のみ使用します。)

9 3スイッチ

使用しません。
(ソフト設定時のみ使用します。)

10 防排煙連動停止スイッチ／

防排煙連動停止スイッチ灯(赤)

押すと感知器が作動しても接続された防火戸などは連動しません。

(防排煙連動停止スイッチ灯／
スイッチ注意灯……………点滅)
もう一度押すと、停止解除になります。
(防排煙連動停止スイッチ灯／
スイッチ注意灯……………消灯)

11 点検スイッチ／点検スイッチ灯(赤)

受信機音響強制停止、全回線空き回線登録解除を行うときに使用します。点検スイッチを1秒以上押したときに点滅(スイッチ有効状態)します。点検スイッチを1秒以上押した場合は、点検スイッチを放した後も点検状態を継続します。(10秒点滅継続)

12 試験スイッチ／試験スイッチ灯(赤)

一斉試験、火災試験、防排煙個別制御を行うときに使用します。押すと液晶表示部に試験メニューを表示し、試験スイッチ灯とスイッチ注意灯が点滅します。
もう一度押すと、液晶表示部、試験スイッチ灯とスイッチ注意灯が消灯します。

13 戻るスイッチ

表示画面内容を1つ前の階層に戻すときに使用します。

14 電池試験スイッチ

押すと自動的に電池試験を行います。試験結果は液晶表示部に表示します。テスターなどで電圧を測定する場合は、連動操作盤内部の電圧測定用の端子を利用します。

15 試験復旧スイッチ／

試験復旧スイッチ灯(赤)

押すと感知器の作動試験時に、連動操作盤発報後約6秒後に感知器などを強制的に自動復旧させます。

(試験復旧スイッチ灯／スイッチ注意灯…点滅)
(警戒中灯……………消灯)
もう一度押すと、試験復旧が解除されます。
(試験復旧スイッチ灯／スイッチ注意灯…消灯)
(警戒中灯……………点灯)

16 OP(オプション)スイッチ1・2・3・

4・5／OP(オプション)スイッチ1灯・2灯・3灯・4灯・5灯(赤)

押すと設定された動作をします。各代表移信接点を連動停止や接点出力などに設定可能です。詳しくは、設定説明書を参照してください。

(OPスイッチ灯／スイッチ注意灯……………点滅)
もう一度押すと、元に戻ります。
(OPスイッチ灯／スイッチ注意灯……………消灯)

2 点検のしかた

点検する前に

警告



必ず守る

- 点検などで作動させる場合は、連動している設備の内容を十分確認して操作する。不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。
- 点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じる。引っ掛けてケガをしたり、誤操作の原因となります。
- 試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻す。
火災時、正常な警報動作をしません。

一斉試験の方法

- この試験は、1回線目から順次、自動的に連動操作盤内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器などの機器を含めて、試験をしてください。
 - 各試験で記載どおりに動作しない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けて実施してください。

- 1** 試験スイッチを押し、液晶表示部に「イッセイ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。
(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)



イッセイ シケン



- 「火災表示試験」「防排煙作動表示試験」「使用回線表示試験」「ランプ表示試験」「蓄積時間測定試験」「メモリー試験」を順次、自動的に行います。

火災表示試験

- 2** 地区灯が回線ごとに順次点灯することを確認する。

- 順次点灯するごとに防排煙灯が点灯し、主音響(音響のみ)が鳴動することを確認してください。
- 回線種別設定を警報回線に設定している場合は、機器作動音響が鳴動することを確認してください。
- 代表移信の出力はしません。

防排煙作動表示試験

- 3** 地区灯が回線ごとに順次点灯することを確認する。

- 回線種別設定を防排煙感知器回線または防排煙復帰制御に設定している回線の地区灯が点灯します。

使用回線表示試験

- 4** 使用されている感知器回線の地区灯だけが点灯することを確認する。(約10秒間)

 次のページに続く

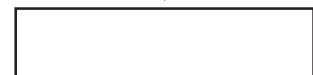
ランプ表示試験

5 防排煙灯、地区灯、操作部のすべてのランプが点灯することを確認する。(約10秒間)

- 液晶表示部は約5秒間、全面「■」表示、その後約5秒間「(表示なし)」になります。



約5秒間表示



約5秒間表示

蓄積時間測定試験

6 ① ピツという音で、熱感知器および煙感知器の蓄積開始を知らせます。

② 5秒～10秒後

- ピツという音で、熱感知器の蓄積終了を知らせます。

③ 55秒～60秒後、液晶表示部に結果を5秒間表示します。

- ピツという音で、煙感知器の蓄積終了を知らせます。

チクセキ ジュ カン
 Netz: s ケムリ: s



チクセキ ジュ カン
 Netz: 6 s ケムリ: s



チクセキ ジュ カン
 Netz: 6 s ケムリ: 58 s

- SIは「秒」を示します。

メモリー試験

7 連動操作盤内部で自動的にプログラムデータのチェックをする。

- 「メモリ シケン NG」と表示された場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
- 良の場合は、「メモリ シケン OK」と表示されます。

8 試験スイッチを再度押し、平常時の監視状態に戻す。

- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯、液晶表示部が消灯します。

試験中に火災を受信した場合

自動的に試験状態を解除し、ただちに火災警報します。



液晶表示部は「イッセイ シケン」の表示に戻ります。(試験開始前の表示)
試験スイッチを再度押すことにより、火災の表示に切り替わります。

火災試験の方法

この試験は、連動操作盤内の火災検知回路試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、感知器などの機器を含めて、試験をしてください。

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けて実施してください。

1 試験時、この連動操作盤と接続されている機器を連動させないようにする場合は、次の該当するスイッチを押す。(スイッチ注意灯が点滅します。)

- 代表移信をしないときは、「移信停止スイッチ」を押してください。(移信停止スイッチ灯が点滅します。)
代表移信接点(出荷時設定の場合、DFc1-DFa1・DFb1、DFc2-DFa2・DFb2、DFc3-DFa3、DFc3-DFa3・DFb3、DFc5-DFa5)が連動しません。
- 連動操作盤の音響を鳴動させない場合は、受信機音響強制停止状態にしてください。(音響強制停止灯が点滅します。)
- 回線別移信をしないときは、回線別移信停止設定した該当のスイッチを押してください。(回線別移信設定については、設定説明書を参照してください。)
押すと回線別移信(In-IC)の出力が停止になります。(IC以外のコモン端子(IC0、IC1、…ICn)を使用している場合は出力停止しません。)
- 防排煙連動をしないときは、「防排煙連動停止スイッチ」を押してください。(防排煙連動停止灯、防排煙連動停止スイッチ灯が点滅します。)
防排煙制御(D1…Dn-DC)が連動しません。

2 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを押し、液晶表示部に「カサイ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。

- 液晶表示部下段に「カイセン[L001]」が表示され、該当の地区灯が早点滅します。



カサイ シケン カイセン [L 0 0 1]

3 ▲▼ スwitchを押し、火災試験を行う回線を選択する。

- 選択した回線の地区灯が早点滅します。

カサイ シケン カイセン [L 0 0 3]

4 回線を選択した後、実行スイッチを押す。

- 1 報目の火災試験のとき、蓄積解除スイッチ・蓄積中灯(赤)が点灯しますので、この間(約8秒間)実行スイッチを押し続けてください。
(※2 報目の火災試験からは実行スイッチを押すだけで5の動作に移行します。)



2 点検のしかた

5 防排煙灯が点滅し、選択した回線の地区灯が点滅から点灯になる。

●主音響が鳴動します。(強制停止していない場合)

6 復旧スイッチを押して警報を止める。 

7 試験スイッチを押すと液晶表示部と地区灯が消える。

(回線選択状態のまま放置した場合でも約 32 分後に消えます。)

8 **1**で連動停止・音響停止させたスイッチを平常時の状態に戻す。

(各スイッチ内のランプは消灯します。)

9 スイッチ注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻る。

試験中に火災を受信した場合

- 試験中の回線が火災を受信した場合、**6**の操作のあとに火災警報します。
- 試験中以外の回線の地区灯が点灯した場合、その回線で火災発生可能性がありますので**6**の復旧操作後の「防排煙」表示で火災の確認を行ってください。

感知器の作動回線の 液晶表示部での確認方法

- この操作は、火災が複数箇所発生しているとき、部屋番号等のメッセージや回線を確認するための操作です。
- 以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けて実施してください。

(1) メッセージ表示を回線表示に切り替えたい場合

0101号 カンチキサト[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ



▶スイッチ(または◀スイッチ)を押すたびにメッセージ表示と回線表示が切り替わります。

L001 カンチキサト[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ



メッセージを表示させたい場合はソフト設定が必要です。詳しくは設定説明書を参照してください。

(2) 火災が複数箇所発生している場合

例 火災が全部で3箇所が発生

0101号 カンチキサト[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ (第1報目の表示)



0102号 カンチキサト[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ (第2報目の表示)



0103号 カンチキサト[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ (第3報目の表示)



カンチキサト[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ (表示ブランク)



0101号 カンチキサト[®] ウ
カクニンゴ[®] オンキョウテイシ (第1報目の表示)

電池試験と電池の電圧測定方法

この試験は、連動操作盤の予備電源として内蔵されている電池に異常がないかを調べるものです。電池電圧値を測定する場合は、下記の「電圧測定」をしてください。

電池試験

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けて実施してください。

1 電池試験スイッチを押す。

- 液晶表示部上段に「デンチ シケン チュウ」が表示され、自動的に5秒間電池試験を実行します。電池試験スイッチを押し続けることにより、連続して電池試験を実施することができます。

(電池試験中は交流電源灯が消灯します。)

- 電池試験スイッチを5秒以上押し続けた場合は、電池試験スイッチを押すのをやめた時点で結果表示を行います。



デ	ンチ	シケン	チュウ
		**	*V

2 試験結果が「良」の場合は液晶表示部下段に「リョウ **.*V」(**.*Vは電池電圧)が表示されます。

- 液晶表示部の電池電圧は目安です。正確な電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。
- 「不良」の場合、電池を交換してください。(施工説明書を参照)

「良」の場合

デ	ンチ	シケン	ケッカ
リョウ		**	*V

「不良」の場合

デ	ンチ	シケン	ケッカ
フリオウ			

電圧測定

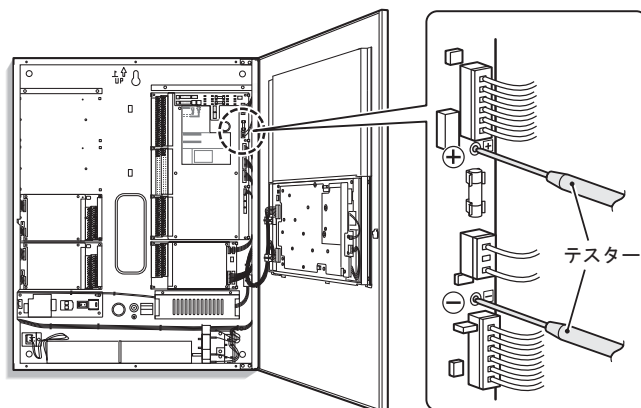
- 以下の試験は、扉を開けてください。

1 電池試験スイッチを押し、液晶表示部に「デンチ シケン チュウ」を表示している間に、本体内の電池電圧の端子にテスターを当てて測定する。

(20.4V以上あれば正常です。)



注 極性を間違えないよう、ご注意ください。

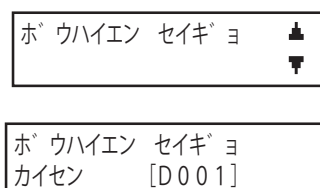
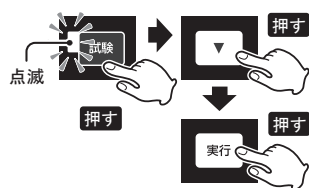


防排煙個別起動制御の方法

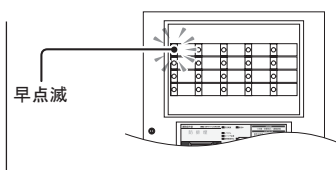
- この試験は、各回線の防排煙機器が正常に動くかを試験します。
- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けて実施してください。

1 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを押し、液晶表示部に「ボウハイエンセイギョ」を表示させてから実行スイッチを押す。

(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)



- 液晶表示部下段に「カイセン [D□□□] (□□□は防排煙回線)」が表示され、該当の地区灯が早点滅します。



2 ▲▼スイッチを押し、防排煙個別起動制御を行う回線を選択する。

- 選択した回線の地区灯が早点滅します。

3 回線を選択した後、実行スイッチを押す。

4 選択した地区灯が早点滅から点灯に変わる。

- 防排煙側の選択した回線の防火戸などが作動し地区灯が点灯します。(点滅の場合は、防火戸などは未動作です。)

5 復旧スイッチを押す。

6 試験スイッチを押す。

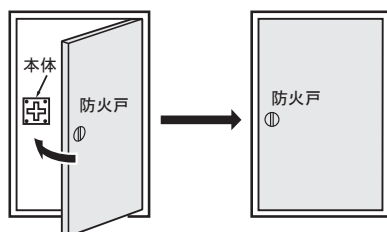
- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が消灯します。
- 液晶表示部が「DA□□□ キキ サドウ」に変わります。

7 防火戸などをリセットする。(図1参照)

- 液晶表示部、地区灯が消灯したことを確認してください。

■防火ドア錠 図1

- 防火戸を本体に押し付けることによりリセットができます。

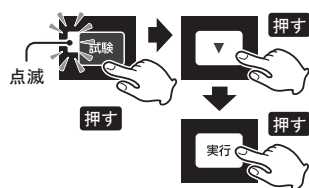


防排煙個別復帰制御の方法

- この試験は、各復帰回線の防排煙復帰機能が正常に動くかを試験します。
- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けて実施してください。

1 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを押し、液晶表示部に「ボウハイエン セイギョ」を表示させてから実行スイッチを押す。

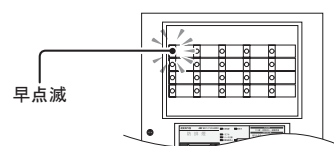
(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)



ボウハイエン セイギョ

ボウハイエン セイギョ
フッキカイセン [D001]

- 液晶表示部下段に「カイセン [D□□□] (□□□は防排煙回線数)」が表示され、該当の地区灯も早点滅します。



2 ▲▼スイッチを押し、防排煙個別復帰制御を行う回線を選択する。

- 選択した回線の地区灯が早点滅します。

ボウハイエン セイギョ
フッキカイセン [D002]

- 液晶表示部下段に「フッキカイセン [D□□□] (□□□は防排煙復帰回線)」が表示され、該当の地区灯が早点滅します。

3 回線を選択した後、実行スイッチを押す。

- 選択した回線の防排煙復帰制御が出力され、地区灯が早点滅から中点滅に変わります。
 - 復帰制御時間が経過すると、出力オフされ、地区灯が早点滅に戻ります。
- (● 回線種別を復帰制御回線に設定した回線の場合のみ、この動作を行います。
● 復帰制御時間の設定変更も可能です。(出荷時の設定 60 秒)
(詳しくは、設定説明書を参照してください。)

4 復帰完了の確認は、選択した回線の防排煙機器の場所に行き、確認してください。

- 地区灯は復帰完了後、消灯します。(回線選択状態のときは、早点滅を継続します。)

受信機音響の強制停止のしかた

- 点検時、連動操作盤から主音響・トラブル音響・機器作動音響を鳴動させない場合に設定します。
- 連動操作盤の音響を止める場合は、「点検スイッチ」を1秒以上押して点検状態(点検スイッチ灯点滅)のときに「受信機音響停止スイッチ」を押してください。
(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。)



解除する場合

- 再度「点検スイッチ」を1秒以上押して点検状態(点検スイッチ灯点滅)のときに「受信機音響停止スイッチ」を押してください。
(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)



定時試験について

- この試験は連動操作盤内の試験です。
- 定時試験の内容は、「火災受信回路試験」「電源試験(電池試験)」「登録データのチェック」です。
- 試験は毎日設定された時刻に実施し、異常がある場合は168時間(7日)以内に検出します。異常を検出した場合、トラブル灯が点滅し、液晶表示部にトラブル表示します。
 (● 定時試験開始時刻の設定については、設定説明書を参照してください。
 ● トラブル発生時の点検・処置については、「トラブル発生時の点検・処置」(31ページ)を参照してください。)

現在時刻を設定する方法

- 本連動操作盤の運用にあたっては、必ず現在の日付と時刻を設定してください。設定しないと、正しい発報/操作履歴データを記憶できません。



注 連動操作盤の交流電源スイッチを「切(OFF)」側(電池もはずした状態)にしたときの現在時刻のバックアップ時間は約48時間です。

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けて実施してください。

- 1 履歴確認スイッチを押し、続いて▼スイッチを押して、液晶表示部に「ゲンザイ ジョク セッテイ」を表示させてから実行スイッチを押す。

- 履歴確認スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。
- 現在の日付・時刻が表示されます。

- 2 ◀▶スイッチを押して、カーソル([])を年、月、日、時、分のいずれかにあわせ、▲▼スイッチで値を変更する。

- 3 実行スイッチを押す。

- 実行スイッチを押さないと、現在時刻の設定は行われません。

(実行スイッチを押さずに、戻るスイッチを押すと変更がキャンセルされます。)

- 4 履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。

- 履歴確認スイッチ灯、スイッチ注意灯が消灯します。

例 現在の日付・時刻:
2015年6月7日12時34分

ゲンザイ ジョク セッテイ

ゲンザイ ジョク
 [15]/06/07 12:34

年/月/日 時:分

例 時刻を12時34分から13時30分に変更する場合

ゲンザイ ジョク
 [15]/06/07 12:34

ゲンザイ ジョク
 15/06/07 [12]:34

ゲンザイ ジョク
 15/06/07 [13]:34

ゲンザイ ジョク
 15/06/07 13:[34]

ゲンザイ ジョク
 15/06/07 13:[30]

ゲンザイ ジョク セッテイ

機能設定(ソフト設定)の開始方法

- 電池の接続コネクタを抜いて、電源スイッチを「切」にした状態から本体内部のソフト設定スイッチを押しながら電源投入することで機能設定(ソフト設定)が開始します。
交流電源灯・警戒中灯・トラブル灯・スイッチ注意灯が点滅します。
(設定項目、設定方法等詳しい内容は設定説明書を参照してください。)

機能設定(ソフト設定)の終了方法

- 液晶表示部に右記内容が表示されるまで戻るスイッチを押します。
- 実行スイッチを押し、すべての設定内容を保存します。
保存終了後、登録完了音(ピッピッピッ)が鳴り、連動操作盤が再起動します。

セッテイ シュウリョウ	▲
シ ッコウデ [※] END	▼



本操作を行わないと、設定データは書き換わりません。

交流電源スイッチを「入(ON)」側にする ときのご注意

移信連動・防排煙連動は、すべて停止解除(連動可能)状態で起動します。接続されている機器が連動しないように注意してください。

交流電源スイッチを「切(OFF)」側にする ときのご注意

連動操作盤の電源を切る場合は、電池接続コネクタを抜いた後、約 10 秒以上待ってから、交流電源(AC100V)スイッチを「切(OFF)」側にしてください。約 10 秒待たずに連動操作盤の交流電源を「切(OFF)」側にした場合は、発報／操作履歴データが記憶できない場合があります。

2 点検のしかた

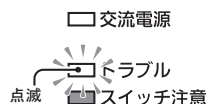
トラブル確認の方法

●この操作はトラブル灯が点滅し、トラブル音が鳴動したとき、トラブルの内容を確認するための操作です。

●以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 トラブルが発生すると

- トラブル灯が点滅し、トラブル音（「ピー トラブルが発生しました。」）が鳴り、液晶表示部にトラブル内容を表示します。



トラブル ヒューズ ダン
オンキョウテイシ ソウサ

2 受信機音響停止スイッチを押す。

- トラブル音が止まります。



トラブル ヒューズ ダン

トラブルが複数箇所発生している場合

1 トラブル確認スイッチを押す。

- トラブル確認スイッチ灯とスイッチ注意灯が点滅します。
- 液晶表示部上段に「トラブル 001 / n」(1 番目のトラブル)
(n: 総発生数)、下段にトラブル内容を表示します。
- トラブル内容の音声メッセージが鳴動します。
(音声メッセージが鳴動するトラブルについては「トラブル発生時の点検・処置」(31 ページ)を参照してください。)



トラブル 001 / 003
ヒューズ ダン

例 トラブルが全部で 3 ヲ所発生していて 1 番目に表示されるトラブルがヒューズ断線の場合

2 ▼スイッチを押すたびに次のトラブル内容に変わります。

- トラブル表示順番は発生順ではなく「トラブル発生時の点検・処置」(31 ページ)の順番になります。
- 一部のトラブルについては音声でも知らせます。(受信機音響強制停止中は鳴動しません。)

3 「トラブル発生時の点検・処置」(31 ページ)にしたがってトラブルを復旧させる。

- トラブルが復旧すれば、トラブル灯が消灯し、液晶表示部のトラブル内容も消えます。

■トラブル発生時の点検・処置

トラブル名称 [液晶表示部の表示内容]	トラブル内容の 音声メッセージ	点 検	処 置
交流電源断 [A C タ ン]	交流電源が 切れています。	連動操作盤内の交流電源スイッチが「切 (OFF)」側になっていないか？	連動操作盤内の交流電源スイッチを「入 (ON)」側にする。
		AC100V 配線が断線していないか？	配線を直す。
		停電などにより交流電源が切れていないか？	停電状態が復電するまで待つ。
		交流電源一次側ヒューズ (F1・F2) が切れていないか？	連動操作盤内部の異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。
電池未接続 [B T ハ ス レ]	バッテリーが 異常です。	電池が接続されているか？	連動操作盤内の電池を接続する。
		電池ヒューズ (F3) が切れていないか？	ヒューズを交換する。
電池試験不良 [B T シケン NG]	バッテリーが 異常です。	電池試験を行い、電池試験結果が「良」となるか？	新しい電池と交換し、再度電池試験を行い結果が「良」になることを確認する。 (新しい電池に交換しても、再度電池試験をしないと「B T シケン NG」の表示は消えません。)
主回路電圧異常 [デ ン ア ツ エ r r]	回路電圧が 異常です。	交流電源スイッチが「切 (OFF)」側の状態で電池の電圧が低下していないか？	連動操作盤内の交流電源スイッチを「入 (ON)」側にする。
		停電などにより、連動操作盤の交流電源が切れていないか？	停電状態が復電するまで待つ。
		副受／中継器用電源 (DI+-DI-) が 20.4V 以上あるか？	連動操作盤内部の電源回路が異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。
		交流電源一次側ヒューズ (F1・F2) が切れていないか？	連動操作盤内部の異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。
連動操作盤動作不能 [ト ャ サ フ ノ ウ]	-	交流電源スイッチが「切 (OFF)」側の状態で電池の電圧が低下していないか？	連動操作盤内の交流電源スイッチを「入 (ON)」側にする。
		停電などにより、連動操作盤の交流電源が切れていないか？	停電状態が復電するまで待つ。
		副受／中継器用電源 (DI+-DI-) が 20.4V 以上あるか？	連動操作盤内部の電源回路が異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。
		交流電源一次側ヒューズ (F1・F2) が切れていないか？	連動操作盤内部の異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。
ヒューズ断線 [ヒューズ タ ン]	ヒューズが 切れています。	副受／中継器ヒューズ (F1) が切れていないか？	副受／中継器用電源配線 (DI+・DIB+-DI-) の短絡を直し、ヒューズ (F1) を交換する。※
		防排煙制御ヒューズ (FD) が切れていないか？	防排煙制御配線 (Dn-DC) の短絡を直し、ヒューズ (FD) を交換する。※
外部トラブル [N * ト ラ フ ル (* : 1 ~ 5)]	-	諸警報入力端子 (Nn-NC) に接続されている機器が出力していないか？	接続機器を確認する。
		諸警報入力端子 (Nn-NC) が短絡していないか？	配線を直す。
メモリ異常 [メモリ E r r]	-	-	内部メモリ異常(プログラム情報)です。 施工店または点検契約店に連絡する。
登録データ異常1 [デ ー タ E r r 1]	-	-	ソフト登録データ異常です。ソフト設定を再度行う。
登録データ異常2 [デ ー タ E r r 2]	-	-	使用回線の登録データ異常です。空き回線登録を再度行う。
登録データ異常3 [デ ー タ E r r 3]	-	-	内部メモリ異常(ユニット情報)です。 施工店または点検契約店に連絡する。
ユニット異常1 [U T * - # # E r r 1 (* : ユニット種類 ※1) (# # : ユニットアドレス)]	-	-	連動操作盤内部の該当ユニットもしくは内部ハーネスが異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。
ユニット異常2 [U T * - # # E r r 2 (* : ユニット種類 ※1) (# # : ユニットアドレス)]	-	-	連動操作盤内部の該当ユニットが異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。

※定格のヒューズに交換してください。ヒューズ断線を繰り返す場合は接続機器が定格内かをご確認ください。

 次のページに続く

2 点検のしかた

トラブル名称 [液晶表示部の表示内容]	トラブル内容の 音声メッセージ	点 検	処 置
感知器配線異常 [L * * * タ ン セ ン] [(* * * : 回線番号)]	感知器配線が 異常です。	感知器配線 (DLn-DLC) が断線していないか？	配線を直す。
		感知器配線 (DLn-DLC) に終端器が接続されているか？	指定の終端器を接続する。
		指定外の終端器が接続されていないか？	指定の終端器を接続する。
		終端器設定が正しく設定されているか？	終端器設定を確認する。(詳しくは設定説明書を参照。)
		使用していない回線 (DLn-DLC) の空き回線登録がされているか？	連動操作盤の空き回線登録スイッチで空き回線の再登録を行う。
火災受信回路異常 [カイロ * * * E r r] [(* * * : 回線番号)]	—	一斉試験を行い、火災表示試験項目で全回線点灯するか？または、該当回線の火災試験を行い、正常に火災状態になるか？	連動操作盤内部の火災受信回路が異常です。 施工店または点検契約店に連絡する。

※1 「ユニット種類について」(36 ページ) を参照してください。

発報／操作履歴の確認方法

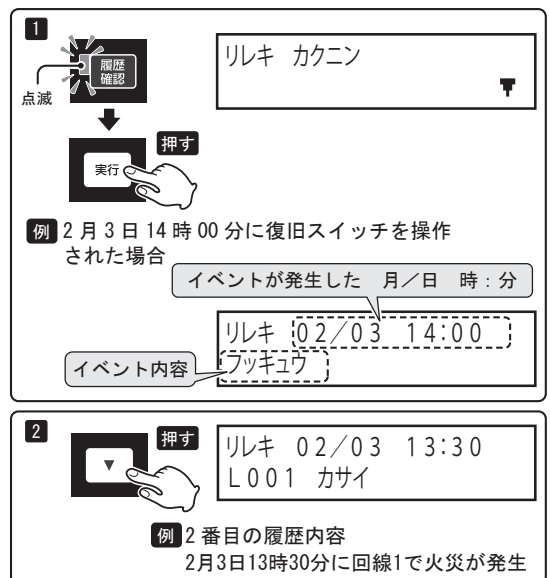
- この操作は、過去の連動操作盤動作・操作内容を確認するための操作です。



発報／操作履歴画面は、蓄積中、火災警報時に表示することはできません。

- 以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けて実施してください。

- 履歴確認スイッチを押し、液晶表示部に「リレキ カクニン」を表示させてから実行スイッチを押す。
 - 履歴確認スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。
 - 液晶表示部に履歴内容を新しい物から表示します。
- ▼スイッチを押すごとに履歴内容が変わります。
 - 火災発生の履歴表示時は、発生回線の地区灯も点灯します。回線別移信停止設定については、設定説明書を参照してください。
- 履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。
 - 履歴確認スイッチ灯・スイッチ注意灯が消灯します。



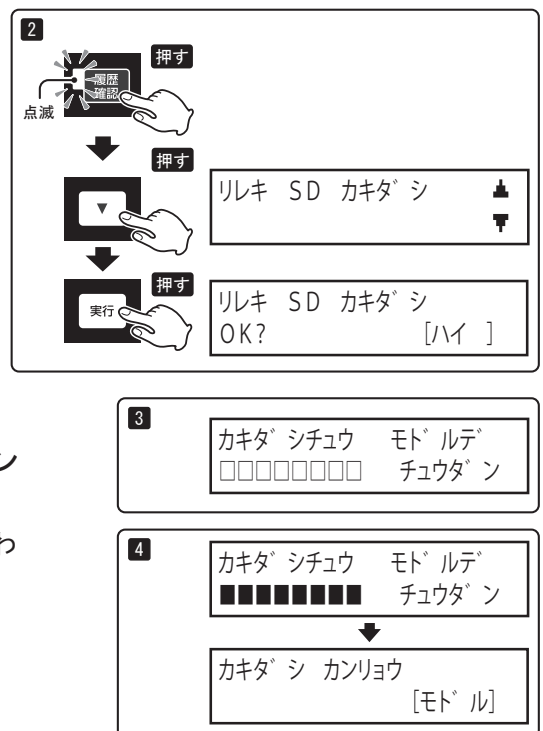
履歴をSDカードに書き出したい場合

履歴データをSDカードに出力して、パソコンに取り込んで表示することができます。



パソコンで表示させるには専用ツール(FP2TG(ver4以降))が必要です。

- SDカードを差し込む。
 - 「SDカードについて」(34ページ)を参照してください。
- 履歴確認スイッチを押し、続いて▼スイッチを押して、液晶表示部に「リレキ SD カキダシ」を表示させて、実行スイッチを押す。
 - 履歴確認スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。
- 再度、実行スイッチを押す。
 - SDカードへの履歴データの出力が始まります。
- 出力が終わると、液晶表示部に「カキダシ カンリョウ」が表示されます。
 - 液晶表示部下段の進行状況表示の「□」がすべて「■」になると、「カキダシ カンリョウ」が表示されます。
- SDカードを取り出す。
 - 「SDカードについて」(34ページ)を参照してください。
- 履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。
 - 履歴確認スイッチ灯、スイッチ注意灯が消灯します。



2 点検のしかた

SD カードについて

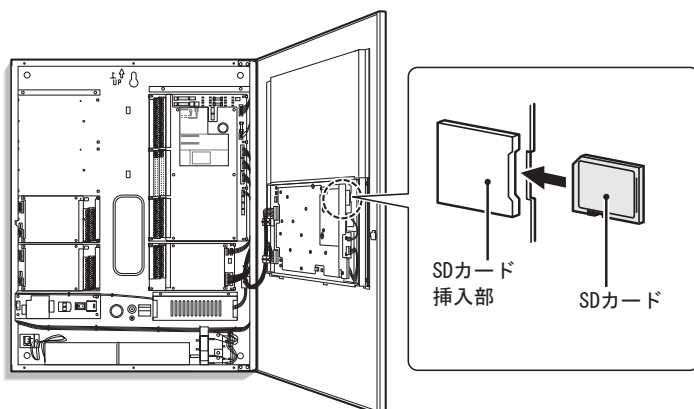
連動操作盤に保存された発報／操作履歴データを専用ツール(FP2TG(ver4以降))を使ってパソコンに表示したい場合は、SD カードを SD カード挿入部に入れてください



- SD カードは付属していません。別途ご購入ください。
- パナソニック製の SD カードあるいは SDHC カードをお使いいただくことをおすすめします。

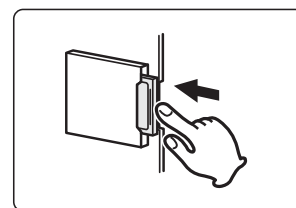
- 1 連動操作盤の扉をあける。
- 2 連動操作盤内(操作部裏側)の SD カード挿入部に SD カードを差し込む。

- 向きに気をつけて、「カチッ」と音がするまで奥に挿入してください。



取り出し方

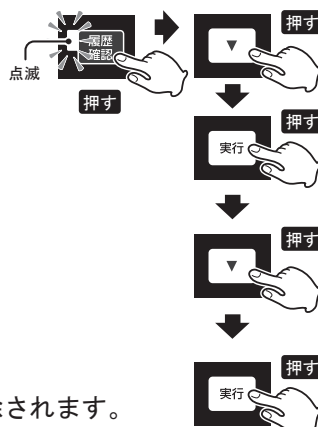
- 1 SD カードをカチッと音がするまで押してから、取り出す。



履歴を消したい場合

- 1 履歴確認スイッチを押し、続いて▼スイッチを押し、液晶表示部に「リレキ クリア」を表示させてから実行スイッチを押し。

- 履歴確認スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。



リレキ クリア

リレキ クリア OK?
[イイエ]

リレキ クリア OK?
[ハイ]

リレキ クリア
カンリョウ

- 2 ▼スイッチを押し、「ハイ」に変更する。

- 3 実行スイッチを押し。

- 今までに記録していたすべての履歴内容が削除されます。
- 履歴クリアすると、完了音(ピッ音)が鳴ります。

- 4 履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。

- 履歴確認スイッチ灯、スイッチ注意灯が消灯します。

履歴表示内容

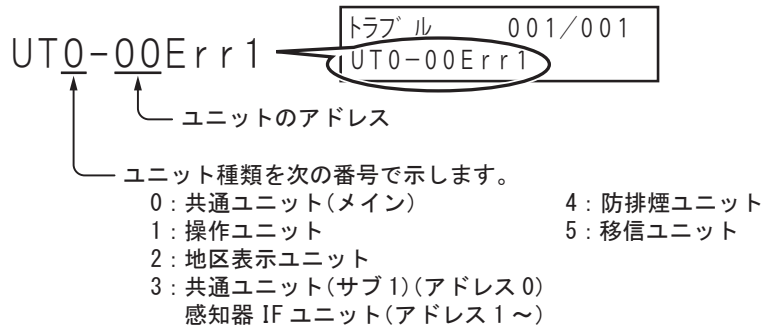
イベント名称	液晶表示部	履歴内容
連動操作盤動作開始	キトウ カイシ ** (** : 00-02)	連動操作盤が動作開始したことを示します。 (**...00 : 交流電源スイッチ「入(ON)」 01,02 : ソフト設定終了などによる再起動)
火災蓄積中(回線番号)	L*** チクセキ (** : 回線番号)	該当回線 (DL***-DLC) の感知器回線の入力により蓄積開始したことを示します。
	***** チクセキ (** : 部屋番号メッセージ)	該当部屋番号メッセージの感知器回線の入力により、蓄積開始したことを示します。部屋番号メッセージが拡大表示設定時も標準文字サイズ表示になります。◀ (左)・▶ (右) 選択スイッチを押すことで、回線番号と部屋番号メッセージ表示を切替えることができます。
感知器(回線番号)発報	L*** カサイ (** : 回線番号)	該当回線 (DL***-DLC) の感知器回線の入力により火災に至ったことを示します。
	***** カサイ (** : 部屋番号メッセージ)	該当部屋番号メッセージの感知器回線の入力の動作により、火災に至ったことを示します。部屋番号メッセージが拡大表示設定時も標準文字サイズ表示になります。◀ (左)・▶ (右) 選択スイッチを押すことで、回線番号と部屋番号メッセージ表示を切替えることができます。
防排煙機器作動／復旧	DA*** ON/DA*** OFF (** : 回線番号)	該当回線の防排煙回線 (DA***-DC) の ON/OFF があったことを示します。
警報回線 (DL 回線) 入力／復旧	L*** ON/L*** OFF (** : 回線番号)	該当の警報回線 (DL***-DLC) (感知器回線を警報回線で設定した場合) の ON/OFF があったことを示します。
警報回線 (N 回線) 入力／復旧	N* ON/N* OFF (* : 1~5)	該当の諸警報回線 (N*-NC) の ON/OFF があったことを示します。
復旧スイッチ操作	フッキュウ	復旧スイッチを押して、復旧したことを示します。
受信機音響強制停止／停止解除操作	オトイシ ON/オトイシ OFF	受信機音響強制停止 (ON) / 停止解除 (OFF) 操作をしたことを示します。
試験復旧スイッチ ON / OFF 操作	シケンフッキュウ ON/シケンフッキュウ OFF	試験復旧スイッチを ON / OFF したことを示します。
蓄積解除スイッチ ON / OFF 操作	チクセキカイシ ョ ON/チクセキカイシ ョ OFF	蓄積解除スイッチを ON / OFF したことを示します。
移信停止スイッチ ON / OFF 操作	イシンテイシ ON/イシンテイシ OFF	移信停止スイッチを ON / OFF したことを示します。
OP(オプション)スイッチ ON / OFF 操作	OP* ON/OP* OFF (* : 1~5)	OP* スwitchを ON / OFF したことを示します。
防排煙連動停止スイッチ ON / OFF 操作	ホウハイエンテイシ ON/ホウハイエンテイシ OFF	防排煙連動停止スイッチを ON / OFF したことを示します。
履歴消去	リレキ クリア	履歴データの消去が行われたことを示します。
現在時刻設定	ジ コクヘンコウ	年月日時刻が変更されたことを示します。
年替り記録	ネンガ ワリ	年替りしたことを示します。
交流電源断発生／復旧	AC タン/AC タン フッキュウ	交流電源断 (停電) が発生／復旧したことを示します。
電池未接続発生／復旧	BT ハスレ/BT ハスレ フッキュウ	電池はずれがが発生／復旧したことを示します。
電池試験不良発生／復旧	BTシケン NG/BTシケン NG フッキュウ	定時試験で、電池電圧の異常が発生／復旧したことを示します。
主回路電圧異常発生／復旧	テンアツ Err/テンアツ Err フッキュウ	連動操作盤内部の回路電圧の異常が発生／復旧したことを示します。
ヒューズ断線発生／復旧	ヒューズ タン/ヒューズ ダン フッキュウ	ヒューズ断線が発生／復旧したことを示します。
外部トラブル発生／復旧	N* トラブル/N* トラブル フッキュウ (* : 1~5)	該当回線の諸警報回線 (N*-NC : 諸警報回線をトラブル設定した場合) の入力が発生／復旧したことを示します。
メモリ異常発生／復旧	メモリ Err/メモリ Err フッキュウ	内部メモリ (プログラム情報) の異常が発生／復旧したことを示します。
登録データ異常 1 発生／復旧	データ Err1/データ Err1 フッキュウ	設定データの登録内容の異常が発生／復旧したことを示します。
登録データ異常 2 発生／復旧	データ Err2/データ Err2 フッキュウ	使用回線の異常が発生／復旧したことを示します。
登録データ異常 3 発生／復旧	データ Err3/データ Err3 フッキュウ	内部メモリ (ユニット情報) の異常が発生／復旧したことを示します。

2 点検のしかた

■履歴表示内容

イベント名称	液晶表示部	履歴内容
ユニット異常1発生／復旧	UT*-##Err1/UT*-##Err1 フックユ (* : ユニット種類) (## : ユニットアドレス)	連動操作盤内部の該当ユニットの異常が発生／復旧したことを示します。
ユニット異常2発生／復旧	UT*-##Err2/UT*-##Err2 フックユ (* : ユニット種類) (## : ユニットアドレス)	連動操作盤内部の該当ユニットの異常が発生／復旧したことを示します。
感知器配線断線発生／復旧	L*** タンセン/L*** タンセン フックユ (*** : 回線番号)	該当回線の感知器配線 (DL***-DLC) の断線が発生／復旧したことを示します。
火災回路異常発生／復旧	カイロ*** Err/カイロ*** Err フックユ (*** : 回線番号)	定時試験で、該当回線の火災受信回路の異常が発生／復旧したことを示します。
履歴異常発生／復旧	リレキ Err/リレキ Err フックユ	発報／操作履歴内容の異常が発生／復旧したことを示します。

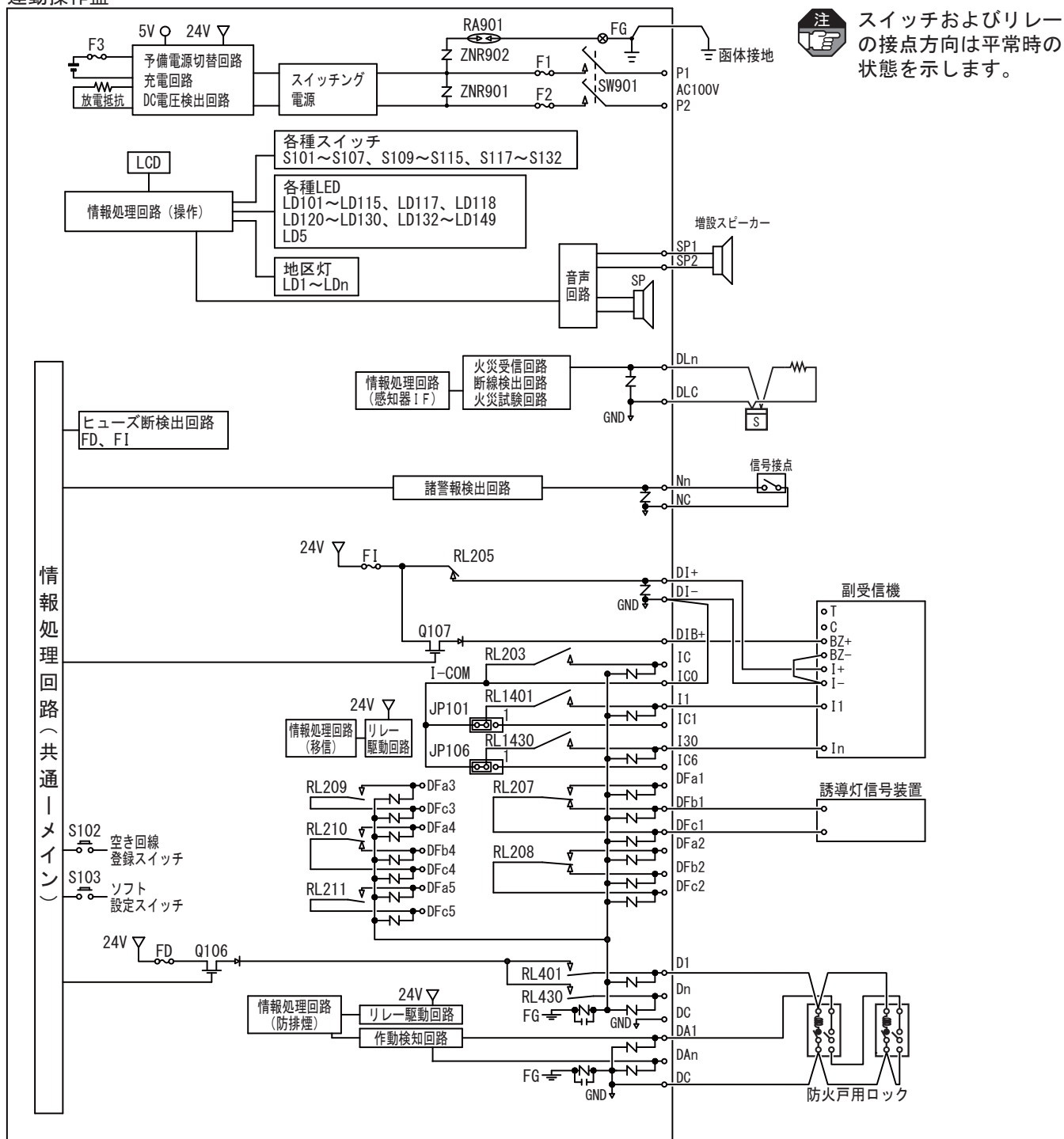
■ユニット種類について



3

内部回路図

連動操作盤



■適用品番 NLD916AEA□□(□□は回線数)

記 号	名 称
SW901	交流電源スイッチ
F1, F2	交流一次側ヒューズ
F3	電池ヒューズ
FD	防排煙制御ヒューズ
FI	副受信機ヒューズ
SP	音声警報スピーカー
RL207～RL211	代表移信リレー
RL1401～RL1430	個別移信リレー(I)
RL401～RL430	個別移信リレー(D)
RL203	移信コモンリレー
LD101～LD105, LD149	防排煙灯
LD1～LDn	地区灯
LD117	交流電源灯
LD118	警戒中灯
LD5	トラブル灯
LD123	音響強制停止灯
LD129	防排煙連動停止灯
LD111	音声ガイドスイッチ灯
LD113	履歴確認スイッチ灯
LD114	トラブル確認スイッチ灯
LD115	試験スイッチ灯
LD121	スイッチ注意灯
LD137	蓄積解除スイッチ・蓄積中灯
LD138	試験復旧スイッチ灯
LD139	防排煙連動停止スイッチ灯

記 号	名 称
LD140	OP1 スwitch灯
LD142	OP2 スwitch灯
LD144	OP3 スwitch灯
LD145	移信停止スswitch灯
LD146	OP4 スwitch灯
LD147	点検スswitch灯
LD148	OP5 スwitch灯
LD124, LD126, LD128, LD130, LD132	諸警報表示部灯
S129	受信機音響停止スitch
S132	復旧スitch
S101	音声ガイドスitch
S103	履歴確認スitch
S104	トラブル確認スitch
S113	実行スitch
S114	試験スitch
S115	戻るスitch
S109～S112	上下左右選択スitch
S106	A—I スitch
S117	蓄積解除スitch／J—R スitch
S107	電池試験スitch／S—Z スitch
S118	試験復旧スitch／—スitch
S125	移信停止スitch／1 スitch
S121	2 スitch
S123	3 スitch
S119	防排煙連動停止スitch／4 スitch
S127	点検スitch／5 スitch
S120	OP1 スitch／6 スitch
S122	OP2 スitch／7 スitch
S124	OP3 スitch／8 スitch
S126	OP4 スitch／9 スitch
S128	OP5 スitch／0 スitch
LCD	液晶表示装置
BT	電池
RA901, ZNR901, ZNR902	サージアブソーバ
JP101～JP106	移信リレー(I)コモン切替ジャンパー

4 定格・仕様

定格・仕様

定格	回線数		15 回線	20 回線
	MAP サイズ		A3 ヨコ	
	常用電源	AC100V 50/60Hz (P1-P2)	消費電力：警戒時最大 20VA	
			消費電力：警報時最大 105VA	110VA
	予備電源		ニッケル・カドミウム蓄電池 受託評価適合品 充電方式：トリクル充電 15・20 回線 DC24V 1650mAh 充電電流：33mA	
	副受信機		電源(DI+→DI-) } まとめて DC24V 220mA 音響出力(DIB+→DI-) } 無電圧接点 30 出力(IC-I1…I30) 接点容量 DC30V 1A まで	
	代表移信接点	※2	無電圧接点 5 系統 (DFc1-DFa1・DFb1) (DFc2-DFa2・DFb2) (DFc3-DFa3) (DFc4-DFa4・DFb4) (DFc5-DFa5) 接点容量 DC30V 1A まで	
	感知器電圧・電流	※4	DC24V 短絡電流 27.5mA 外部配線抵抗 往復 50Ω 以下 (DLC→DL1…DLn)	
	終端器	※1	終端抵抗器：10KΩ (5.1KΩ, 20KΩ も対応可能)	
	主音響装置		警報音(断続音)+音声メッセージ：85dB/m 以上	
防排煙 定格	ロック接続容量		DC24V 1 回線当たり最大 2A まで、 全回線同時動作最大容量 2A まで (DC-D1…Dn)	
	作動音響装置		警報音(断続音)：70dB/m 以上	
その他	諸警報 電圧・電流		DC24V 短絡電流 5mA、外部配線抵抗 往復 50Ω 以下 (NC-N1…N5)	
	諸警報音響装置		警報音(断続音)：70dB/m 以上	
	増設スピーカー	※3	光る増設スピーカー…3 台まで(配線長：φ0.9m…50m 以下 φ1.2m…100m 以下) または増設スピーカー…1 台まで(配線長：φ0.9m…20m 以下)	
	使用周囲温度		0°C～+40°C	
	質量		約 30kg	
	主要部品材質		鋼板(扉・函 t=1.2) 5 分ツヤ有 メラミン塗装、鋼板(取付金具 t=2.3)脱脂	

- ※1 20kΩ の終端抵抗器が接続されている場合は、終端器設定を「20k」に変更してください。(詳しくは設定説明書を参照してください。)
- ※2 代表移信接点は、設定により用途を変更することができます。出荷時はすべて防排煙感知器になっています。(詳しくは設定説明書を参照してください。)
- ※3 増設スピーカーは火災警報音響、トラブル音響、作動音響が鳴動します。(一斉試験音響は鳴動しません。)
増設スピーカーの鳴動は連動操作盤の主音響鳴動と同じタイミングで警報内容を鳴動します。(鳴動停止も同じタイミングです。)
光る増設スピーカーの場合は、鳴動と同時にフラッシュランプが点滅します。(点滅のみ、最大2分間で消灯します。)
- ※4 蓄積式感知器は接続できません。

感知器接続数

接続機器		終端抵抗器：10kΩ	終端抵抗器：5.1kΩ	終端抵抗器：20kΩ
感知器 (1回線当たり)	A 熱感知器（電子式自己保持タイプ）	80 コ	80 コ	20 コ
	B 煙感知器（1 種、2 種、3 種）	30 コ	30 コ	7 コ
	D 光電式分離型感知器	1 セット	1 セット	接続不可
上記感知器が混在する場合は、上記の条件を満たしたうえで、右記方程式により接続個数を決めてください。		$A + \frac{8}{3} B \leq 80$		$A + \frac{8}{3} B \leq 20$
 ● 光電式分離型と他の感知器との混在接続はできません。 ● 一般熱感知器（接点式）は、1 回線あたりの接続数の制限はありません。 ● 終端抵抗 5.1kΩ を使用する場合、システムトータルでの感知器個数は、下記の方程式により接続数を決めてください。 $A + \frac{8}{3} B + 80 D \leq \frac{80}{3} \times \text{回線数}$				





A series of horizontal lines for writing, consisting of a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line, repeated down the page.

連絡先一覧表

施工店や点検契約店など、記入されておくと便利です。

点 検 契 約 店	TEL
施 工 店	TEL
設 備 竣 工	年 月 日

日本ドライケミカル株式会社